

水の轍

～水を引き入れ、まちを守る関係～

00 新陳代謝

新陳代謝とは、古いものに取って代わり新しいものに次第に替わっていくことである。それは何かの本質を守るため、変化している。まちでの新陳代謝とは、日々の変化や更新の中で、互いの関係性を守り、時間をかけながら文化として深めていくことではないだろうか、それがまちが生きていくための骨格となる。



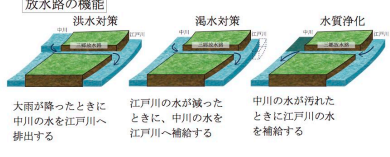
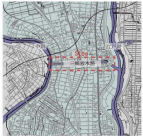
01 暮らしと水

水という地球には必要不可欠なもの。それは私たちの生活の中でも密接にかかわっている。「暮らしと水」水は大きくなれば、巨大な力となる。普段感じることのない大きな水の恐怖と人の距離感を保っている土木構造物の一つの在り方なのかもしれない。天候によって引き起こされたまちの変化の一つである豪雨などにより土木構造物が崩れると日々暮らしすまもくずれていく。



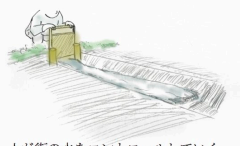
02 水害に悩まされた街にできた放水路

三郷市は中川と江戸川の2本の大きな河川に挟まれ、市内に3本の小さな河川が流れる水の豊富な街。そのため河川による被害を度々受けることもあった。そして中川と江戸川を結ぶ三郷放水路は、洪水や濁水、水質浄化をすることで街を守ってきた。



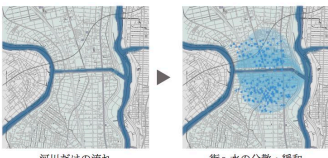
03 水門に守られてきた街から人がともに守る街へ

水門の水量調節によって街や人は守られてきた。それによって人は水の脅威を忘れていき、距離感が遠ざかっていく。今までは水を引き入れを拒み街を守ってきたが、街に水を引き入れることで、人の水に対する文化的意識を根付かせてくれる。日常での水との新たな関係が街を守ることへ繋がっていく、水の轍と堰によって街の水をコントロールし、水との関係を深める。

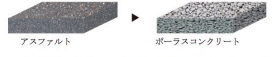


04 線の流れから面的広がりに

水を線的な放水路の流れの調節によって街と人を守ってきたが、街の新たな水路を複数形成することで街に水が面的に広がっていく。水害時の分散・緩和していく。

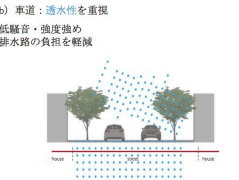
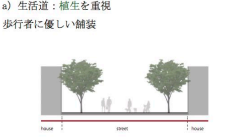


05-1 舗装の更新



水と緑と共生していくためにアスファルト舗装からポーラスコンクリート舗装へ更新していく。

05-2 空間変化による舗装の調整



06 まちの更新

phase 1 水を河川を通じて街に引き入れる phase 2 まちに水の轍が見れる phase 3 植物と共存し、緑が広がっていく phase 4 暮らしのなかに染み込んでいく

人の生活道には植生を重視し、車道には透水性を重視したポーラスコンクリートの空率に調整していく。 河川や雨水が次第に舗装を侵食していき、水の通り道に轍が形成されていく。 植物が緑化舗装から芽を出す 人が入れるスペースまで広がる轍ができて始め、人々のたまりのスペースとなる。



05-2 ポーラスコンクリートの特徴

空率率の調整により、様々な用途に利用できるポーラスコンクリート。空率率のコントロールにより、表面は多様な機能性が生まれ、下層に流れた水は農地や河川へと流れていく。

